

道の駅「摩周温泉」における駐車場利用環境向上の取組 ーシーニックバイウェイ・道の駅の連携による3年目の取組報告ー

釧路開発建設部 道路計画課

○中島 一佳

古市 直人

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒地構造チーム

角間 恒

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイでは、令和元年度より道の駅「摩周温泉」において、道路協力団体制度を活用した駐車場利用環境向上の取組を実施している。本稿では、令和3年度に道の駅と連携して実施した、道の駅駐車場の混雑緩和のための臨時駐車場への案内誘導、および、ドライブ観光客への快適な駐車環境の提供のための予約制駐車スペースの設置について、それぞれの取組内容と結果を報告する。

キーワード：道の駅、駐車場、シーニックバイウェイ、道路協力団体

1. はじめに

平成5年に制度が創設された「道の駅」は、制度開始から四半世紀が経過し、今では全国で1193駅、北海道で129駅を数える（令和4年1月現在）。その間、道の駅に求められる機能は多様化し、制度開始当初は「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」の3機能であったが、平成16年頃からは災害時の「防災機能」が追加され、平成25年には「道の駅自体の目的地化」を目指し、公共サービス機能の集積化等が進められた。さらに令和元年からは、道の駅第3ステージと位置付け、「地方創生・観光を加速する拠点へ」、「ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献」を新たなコンセプトに、各道の駅における自由な発想と地元の熱意のもとで、観光や防災など更なる地方創生に向けた取組を進めている。

釧路管内の弟子屈町にある道の駅「摩周温泉」は、摩周湖、硫黄山、屈斜路湖等を有する阿寒摩周国立公園に隣接している（図-1）。また、釧路湿原国立公園、知床国立公園など、北海道が世界に誇る観光地へのアクセスの良さなどから、ひがし北海道におけるドライブ観光の拠点としての役割を担うとともに、広域的な観光情報の発信や地域活性化の取組を実施していることから、平成30年度には重点「道の駅」に選定されている。

当道の駅では、夏季の観光繁忙期になると、昼間の道の駅開館時間のみならず夜間にも来訪車両で駐車場が溢れ、駐車マス外や路上への駐車など、マナー違反が横行していた（写真-1）。その一方で、近年の車中泊需要の高まりにより、駐車スペースの確保や電気の使用など、「道の駅」駐車場利用者の求めるニーズが多様化している状況でもある。

こうした中、「道（みち）」をきっかけとした地域づ



図-1 道の駅「摩周温泉」の位置図
(国土地理院地図より作成)

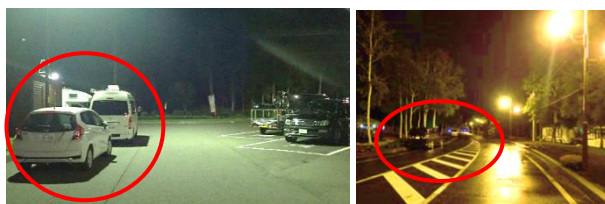


写真-1 駐車マス外や路上への駐車（赤枠内）

くり・観光空間づくりを展開する「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」（以下、釧路SBW）は、令和元年度から、道の駅「摩周温泉」と連携して、道の駅駐車場の利用環境改善に向けた取組を実施してきた。本稿では、今年度で3年目を迎えた本取組として、道の駅駐車場の混雑緩和のための臨時駐車場への案内誘導、および、ドライブ観光客への快適な駐車環境の提供のための予約制駐車スペースの設置を行った結果について報告する。

なお、本取組は、実施主体である釧路SBWが道路協力団体制度の指定を受けて実施している。

2. 取組の舞台と実施主体

(1) 道の駅「摩周温泉」

取組の舞台となる道の駅「摩周温泉」の概要を表-1に示す。当道の駅は国道241号に隣接し、弟子屈町が整備を実施する「単独型」として平成5年（第1回）に登録された。平成23年のリニューアル時に道路管理者が駐車場の拡張を行っており、現在は「一体型」となっている。冒頭で述べたとおり、世界的な観光資源に囲まれた立地であることに加え、当道の駅は「北海道「道の駅」ランキング2020」²⁾において、「道路や地域に関する情報提供が充実していたと感じた道の駅」、「ゆっくり休憩できたと感じた道の駅」、「長時間滞在したい道の駅」の3部門において、トップ10にランクインしており、道の駅来訪者から高い評価を得ている。

当道の駅には、道路管理者が整備した第1駐車場と、弟子屈町が整備した第2駐車場に加えて、4月下旬～10月下旬の観光シーズンに合わせ、期間限定で臨時駐車場を開放している（表-2、図-2）。しかし、臨時駐車場の開放期間中も第1駐車場、第2駐車場における慢性的な駐車マス外や、路上への駐車が依然として発生しており、道の駅来訪者の駐車場所を確保することが課題となっていた。

表-1 道の駅「摩周温泉」の概要

設置者	弟子屈町
路線名	国道 241 号
整備形式	一体型
登録	平成 5 年 4 月（第 1 回） 平成 23 年 7 月（リニューアル）

表-2 各駐車場の駐車可能台数

駐車場	普通車	大型車	身障者	管理
第 1 駐車場	31 台	4 台	3 台	国
第 2 駐車場	35 台	5 台	—	町
臨時駐車場	25 台	—	—	町



図-2 道の駅「摩周温泉」の駐車場の位置図

NAKAJIMA Kazuyoshi, FURUICHI Naoto, KAKUMA Ko

(2) 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ

本取組の実施主体である釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイは、平成18年にシーニックバイウエイルートに指定され、現在に至るまで、景観診断・改善、清掃活動、地域情報の発信など、道路管理者や自治体、地域住民等と協働して、道路課題の解決や地域の観光振興に取り組んでいる。最近では、釧路SBWが推薦した国道243号美幌峠～屈斜路（延長18.1km）および中標津町道武佐北19号道路/開陽台観光道路（延長7.8km）の2区間が、令和3年度から本格運用となったシーニックバイウエイ「秀逸な道」に認定され、多様な主体が連携のもと、道路を地域の観光資源として活用することにより、北海道のドライブ観光促進が期待される。

道の駅「摩周温泉」においては、当道の駅の館内や24時間トイレにおける弟子屈町内施設の利用促進に向けた情報発信を行っているほか、道の駅に隣接する町民・観光客の癒やしの場「水郷公園」、そこに至る木製アーチ橋「なんだろう橋」へ道の駅利用者の誘導を行うなど、道の駅を拠点とした地域活性化の取組の一翼を担っている。また、平成26年以降、道路管理者と協働して夏季観光繁忙期における駐車場の利用状況調査に取り組んできた。

3. 駐車場利用環境向上に向けた取組内容

本取組は、大きく二つの内容により構成されている。一つは、国道241号に面し、利用者が多い第1・第2駐車場の混雑緩和・適正利用を目的とした来訪車両の臨時駐車場への誘導であり、もう一つは、駐車場所の確実な確保および充電設備を配置し、快適な利用空間の提供を目的とした予約制駐車スペースの設置である。

表-3に、令和元年度から令和3年度の取組概要をまとめた。令和3年度の取組期間は、7月21日（水）～9月26日（日）までの68日間とした。以下に令和3年度に実施した取組の詳細を説明する。

(1) 臨時駐車場への誘導

来訪車両の臨時駐車場への誘導に向けて、臨時駐車場の認知度向上と、夜間における臨時駐車場への街灯点灯時間の延長に取り組んだ。

a) 臨時駐車場への誘導看板の設置

自動車で道の駅「摩周温泉」を訪れる場合、道の駅の北側に接する国道241号が主たるアクセス道路となっており、臨時駐車場は国道からは直接視認できない位置にある（図-2）。令和元年度から実施している本取組においては、令和2年度に、臨時駐車場を案内する看板を2箇所に設置したが、同年度に当道の駅で実施したアンケートによると、来訪者のうち臨時駐車場を認知している割合は約50パーセントであり、より多くの車両を誘導する

表-3 駐車場利用環境向上の取組概要

期間		令和元年度	令和2年度	令和3年度
		8月5日(月)～8月18日(日)	8月7日(金)～8月16日(日)	7月21日(水)～9月26日(日)
日数		14日	10日	68日
臨時駐車場 への誘導	看板等	—	第1駐車場内、第2駐車場横	第1駐車場内、第2駐車場横 第1駐車場横、道の駅館内
	街灯点灯	—	—	点灯時間延長
予約制駐車 スペース	予約システム	タイムズのB	タイムズのB	タイムズのB
	場所、台数	西側：3台	西側：3台、東側：4台	西側：3台
	料金	1500円	西側：1500円、東側：1000円	1500円
	利用時間	10:00～翌日10:00	10:00～翌日10:00	10:00～翌日10:00
	サービス	電気設備とゴミ回収	西側：電気設備とゴミ回収 東側：ゴミ回収	電気設備

ためには更なる認知度の向上が必要と考えられた。そのため、令和3年度には、既存の2箇所に加え、国道241号を走行する車両に向けた誘導看板を設置し、誘導効果の向上を図った(写真-2)。また、ポスターやチラシも作成し、当道の駅の館内や24時間トイレにて掲示した。

さらに、弟子屈町の協力により、事業者がGoogleマップ上に店舗・企業情報を掲載できるサービス「Googleビジネスプロフィール」を活用し、Google検索やGoogleマップにおいて、道の駅「摩周温泉」の検索画面に臨時駐車場の情報が表示されるようにした。これにより、インターネットから道路情報を入手する旅行者に対し、現地に到着せずとも臨時駐車場を周知広報できるようにした。

b) 街灯の点灯時間延長

周知広報の強化に加え、街灯を管理する弟子屈町の協力により、通常は深夜に消灯する24時間トイレ～臨時駐車場間の街灯の点灯時間を日の出まで延長し、夜間でも安心して臨時駐車場を利用できるようにした(写真-3)。

(2) 予約制駐車スペース

当スペースは、釧路SBWのメンバーが担当して設置した(写真-4)。運営は民間駐車場事業者であるタイムズ24株式会社の仕組みを活用して実施している。

a) 取組期間

過去2年間の取組では、8月のお盆時期を含む10日～14日の取組期間を、令和3年度は7月21日～9月26日までの68日間と大幅に拡大した。これは、過年度の利用状況から、7月22日～25日および9月下旬のシルバーウィークの利用が見込まれたこと、また、繁忙期外における利用状況を把握することを目的として設定したものである。

b) 駐車場の予約システム

当スペースの予約システムには、タイムズ24株式会社が提供する駐車場シェアリングサービス「タイムズのB」を使用し、予約受付や料金収受のほか、利用者からの問合せ対応(24時間)を同社が実施した。

c) 設置場所および提供サービス

当スペースは、第1駐車場の西側エリアに位置する4台分(1台当たり縦5.0m×横2.5m)の区画を使用し、キャンピングカー同士が並んだ場合にも余裕をもって駐車できる



写真-2 臨時駐車場への誘導看板



写真-3 街灯点灯の様子



写真-4 予約制駐車スペース

よう、取組期間中に限りこれを3台分に区画し直した（1台当たり縦5.0m×横3.3m）。また、令和2年度に追加した東側エリアの区画は、取組の簡素化および稼働率向上のため、令和3年度の実施では廃止した。

当スペースの利用者には、区画付近に設けた分電盤から各マスにコードリール（コンセント定格：2P・15A・125V、コンセント数：4個）を配置し電気を提供している。

なお、過去2年間の取組で提供していたゴミ回収サービスは、今年度、道の駅が独自で来訪者に対する有料回収事業を開始したことに伴い取組から除外した。

d) 取組の周知広報

令和3年度の実施では、関係機関協力のもと、釧路開発建設部やタイムズ24株式会社による報道発表、北海道地区「道の駅」連絡会（北の道の駅）や一般社団法人日本RV協会のホームページ、釧路SBWが運営するSNS、前述のGoogleビジネスプロフィールなど、インターネット媒体を中心に、多様な周知広報活動を展開した。また、印刷媒体を活用したものとして、道の駅館内や道東自動車道SA・PA（占冠PA、十勝平原SA、長流枝PA）にチラシ・ポスターを設置した（図-3）。

e) トラブル対応の体制構築

当スペースの運営において、トラブルがあった際の対応は、基本的にタイムズ24株式会社が行うこととなっているが、令和2年度の実施時に、道の駅「摩周温泉」を含む周辺地域の停電により、現地で充電設備が使用できない事象が発生し、やむを得ず道の駅担当者が対応に当たるといった事態を招いた。

この反省を踏まえ、令和3年度の実施においては、関係機関（釧路SBW、道の駅、弟子屈町、タイムズ24株式会社、釧路開発建設部）で入念な打合せを行い、様々な事象を想定した対応マニュアルを作成・共有することにより、トラブル発生時の連絡・連携体制を構築した。

4. 取組結果

本取組による臨時駐車場への誘導効果を把握するため、第1駐車場、第2駐車場、臨時駐車場に定点カメラを設置し、駐車台数のカウント調査を行った。

また、予約制駐車スペースの課題や、臨時駐車場の認知度の把握、利用数の向上に向けた検証を行うため、道の駅来訪者と当スペースの利用者を対象としたアンケート調査を実施した。

(1) 臨時駐車場への誘導

図-4に各年度における駐車台数の比較を示す。比較対象期間は、お盆期間前の金曜日から期間後の日曜日までの10日間とした。令和3年度の第1駐車場の平均駐車台数は23.5台であり、令和元年度の30.7台と比較して、約23%

減少していた。同様に第2駐車場、枠外駐車場の台数についても減少していた。コロナ禍に伴う道の駅来訪者の減少が考えられるが、その中で唯一、臨時駐車場の台数は令和元年度の7.7台から令和3年度は9.7台へと増加していた。

道の駅来訪者アンケート（図-5、図-6）によると、令和2年度の認知度が51%であったのに対し、令和3年度は67%に増加していた。また、臨時駐車場を知ったきっかけについては、「通りかかって見つけた」が40票で最も多く、「道の駅の看板・ポスター」が37票で2番目に多かった。このことから、看板の設置強化等に伴う誘導の効果により認知度が向上し、利用台数の増加に寄与したものと考えられる。

(2) 予約制駐車スペース

表-4に3年間の利用実績を示す。令和3年度の実施では、27台、延べ39件の利用があった。27台のうち5台は、



図-3 取組の周知広報用ポスター・チラシ

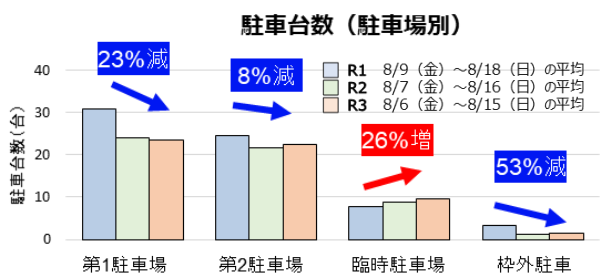


図-4 駐車台数の比較（午前5時時点）

複数回のリピート利用となっており、2回が2台、3回が2台、7回が1台であった。また、令和元年度から3年連続の利用が2台、令和2年度から2年連続の利用が1台であった。7月および9月の連休や、お盆期間に台数が増加する傾向である一方、繁忙期外の平日や土日は利用が少ない結果となった（図-7）。

次に、3年間の予約制駐車スペースの利用件数と道の駅「摩周温泉」の入込客数の比較を図-8に示す。比較対象期間は、駐車台数の比較と同様に、お盆期間前の金曜日から期間後の日曜日までの10日間とした。コロナ禍により令和元年度から令和3年度にかけて、道の駅「摩周温泉」の入込客数が減少傾向にある中、令和3年度の当スペース利用件数は、過去2年と比較して、同水準を維持し

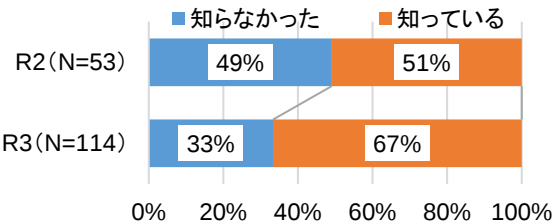


図-5 臨時駐車場の認知度比較
(出典：R2、R3道の駅来訪者アンケート)

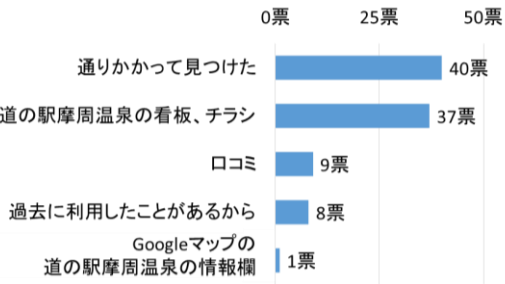


図-6 臨時駐車場を知ったきっかけ (N=76)
(出典：R2、R3道の駅来訪者アンケート)

表-4 予約制駐車スペースの利用実績

期間	利用件数
令和元年度 8月5日(月)～8月18日(日)	16件
令和2年度 8月7日(金)～8月16日(日)	13件
令和3年度 7月21日(水)～9月26日(日)	39件

7月							8月							9月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
																				2台
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
							2台	3台	3台		2台	2台	2台							
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
									1台		1台									
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
				3台	3台	2台			1台	1台				1台			1台		1台	1台
25	26	27	28	29	30	31	29	30	31					26	27	28	29	30		
					2台	1台			1台											

図-7 令和3年度 予約制駐車スペースの日別利用実績

ていた。

予約制駐車スペースの利用者に対しアンケートを行った結果、当スペースを知ったきっかけとしては「道の駅摩周温泉の看板、チラシ」との回答が47%で最も多かった（図-9）。当スペースを現地で知り、その場で予約した利用者が多かったと考えられる。当スペースの利用目的では、「電気設備の利用」の回答が80%で最も多く、具体的にはキャンピングカー搭載のバッテリー充電、および、車載電化製品の稼働等が挙げられた（図-10）。また、回答者の93%が再度利用したいとの意向であった（図-11）。このことから、利用者から高い評価を得られたと考えられる。

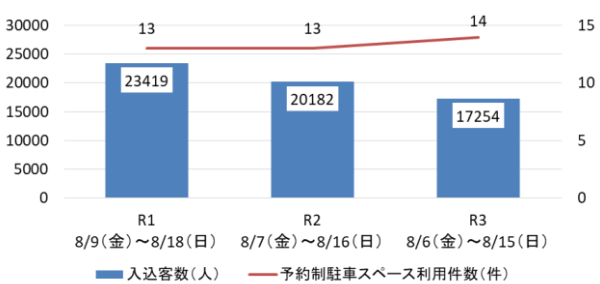


図-8 予約制駐車スペース利用件数と入込客数の比較

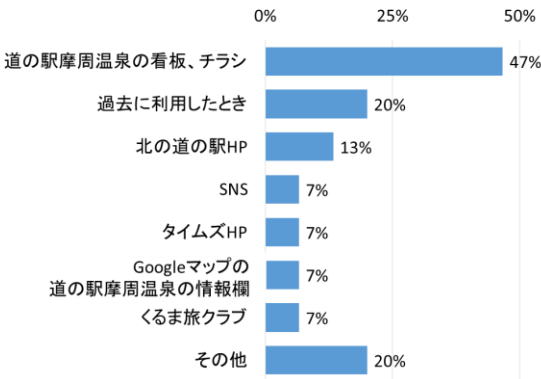


図-9 予約制駐車スペースを知ったきっかけ
(複数回答可) (n=15)

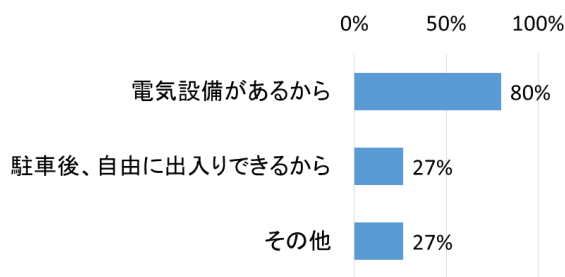


図-10 予約制駐車スペースの利用目的
(複数回答可) (n=15)

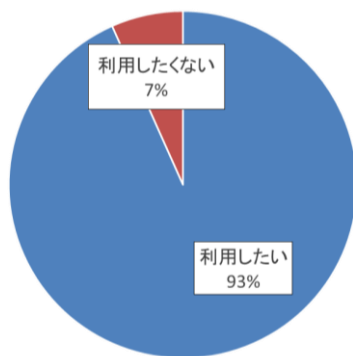


図-11 予約制駐車スペースの再利用意向 (n=15)

5. おわりに

本稿では、道の駅「摩周温泉」における駐車場の利用環境向上のために実施した内容と結果を報告した。

まず、道の駅駐車場の混雑緩和のために行った、臨時駐車場への案内誘導は、駐車台数のカウント調査やアンケート結果から、枠外駐車が減少し、臨時駐車場の利用台数が増加していることから、誘導効果があり、駐車場

の適正利用に寄与したものと考えられる。一方で、駐車マス外への駐車が未だに見られ、完全な解決には至っていない。

次に、快適な利用空間提供のために行った予約制駐車スペースの設置については、道の駅の入込客数が減少する中、利用台数が過年度と同水準を維持していたことや、リピーターも複数いることなどから、一定のニーズがあることを確認できた。コロナ禍の影響もあり、旅の移動手段として自家用車の利用傾向が高まっている中、当スペースは密を避けた旅行の目的地として、今後もキャンピングカー利用者を中心に利用が見込まれる。

以上のことから、道路利用者に快適な利用環境と多様なサービスを提供するため、今後も取組を継続していきたいと考える。また、本取組が地域の観光振興メニューの一つとして、道の駅を中心としたまちづくりに貢献できるよう、シーニック団体を中心とした地域住民と道の駅、道路管理者など、関係期間がこれまで以上に連携することが今後の取組において重要になると考える。

謝辞：本報告の作成に当たっては、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ、道の駅「摩周温泉」、弟子屈町役場観光商工課に協力を賜りました。ここに付記し、感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 小林佳太郎、南部裕之、大西功基：「道の駅」摩周温泉における車中泊対策の試行について—シーニックバイウェイ、道の駅、民間駐車場事業者の3者連携による取組—、第63回（2019年度）北海道開発技術研究発表会、pp.43-48、2020.
- 2) 北海道開発局：北海道「道の駅」ランキング2020の発表！～スタンプラリー完走者が選んだ「道の駅」ランキング～、北海道開発局 報道発表資料、2021.